

第1章 とやま呉西圏域における広域連携

1 都市圏ビジョン策定の趣旨

人口減少・少子高齢化が進行する昨今の社会情勢の中、地域の再生、創生を果たすには、一定の規模と都市・生活機能を包括する広域的な地域において、人口や活力ある社会経済を維持することが重要です。

本圏域を構成する富山県西部6市は、古くから呉西と称され、加賀藩に色濃く影響を受けた文化圏や、通勤・通学などによる一体的な経済・生活圏を形成してきました。しかし、全国的に急速な人口減少が進む中、本圏域では全国平均を上回る速度で高齢化が進行していることなどから、圏域の活力を将来的に維持・向上するためには、圏域ネットワークの一層の強化を図り、地域経済の活性化や交流人口の拡大、定住の促進を図っていく必要があります。

このことから、平成28年10月に県西部6市による「とやま呉西圏域連携中枢都市圏」を形成し、6市が持つそれぞれの個性・特性を活かし、圏域の発展に向けた取組を進めてきました。

この間、東京圏への過度な一極集中や能登半島地震を踏まえた激甚化する自然災害への対応等の課題に直面しており、6市による連携の枠組みを維持、強化する必要性がますます増加しています。本ビジョンは、第1期、第2期ビジョンを継承しながら、新たな取組やこれまで進めてきた連携を更に深めることにより、圏域全体の経済を持続可能なものとし、住民が安心して快適な暮らしを営んでいけるよう、中長期的な「圏域の将来像」とその実現に向けた取組などを示す戦略として策定するものです。

2 連携中枢都市圏の名称及び構成自治体

(1) 連携中枢都市圏の名称

とやま^{こせい}呉西圏域

(2) 連携中枢都市圏の構成自治体

高岡市、射水市、氷見市、砺波市、小矢部市、南砺市

3 計画期間

2026年度（令和8年度）から2030年度（令和12年度）の5年間

